

## (^\_^)v 趣味に生きる (第19回) ~. ~. ~. ~. ~. ~.

# 美の麗彩

阿南 建一

(福岡大学医学部 腫瘍血液感染症内科学)

### ◆はじめに

そもそも「美人画」を描き始めたのは子供の頃からよく漫画を描いていたことに始まります。そして23歳の頃，“霜月に氷雨の夜”コタツに身体を温めながら部屋に飾られた美人画のカレンダーに触れた時です。その作品は浮世絵師・佐藤光園画伯の傑作集で、繊細に描写された“女性の優しさ”がとても印象的でした。それ以来「美人画」にのめり込んでいったようです。あの坂本龍馬が中岡慎太郎とともに刺客に暗殺された夜も“霜月に氷雨の夜・・・”でした。話はずれですが、当初は現代女性画ばかりを描いておりました(写真1)が、実際に「美人画」を描き始めた頃はクロッキー(速写画)から始め次

第に墨絵に挑戦するようになりました(写真2)。私の気ままな性格でしょうか、描写し始めると一気に描くのですが、そうでなくなるとブランクは数十年にも及ぶこともあり、それが災いしてかその後全く手づかずの状態が続いておりました。

### ◆病理主任の企画が動かした美への追究

国立中津病院(大分県・中津市)に勤務していた1999年9月の頃(52歳)、病理主任から“阿南技師長、文化祭をしませんか?”と声をかけられました。それは「外来患者待ち時間対策」の一環として考えられたものでした。私はすぐさま賛同し臨床検査科内の同意も得て施設へ上



現在アトリエとなっている和室(拙宅にて 2011.12.12)



写真1 初めて墨絵で描いた女性画(1970年 23歳頃)



写真2 初めて墨絵で描いた美人画(1970年 23歳頃)

申ししたところ協力体制を得ることができました。文化祭というか趣味のコーナーとして「閃(ひらめ)きるとき」のテーマを掲げ、職員に展示物を依頼したところ、パッチワークや習字、絵画などが出品されました。私も病理主任の要請で「美人画」を出展することにしました。国立大阪病院時代(1975年 28歳頃)に久し振りに筆をとりましたが、それ以来のことですので実に25年振りのこととなります。悪戦苦闘しながらも墨絵に加え初めて彩色にも挑戦しました。結局、墨絵3点と彩色1点を展示することになりました(写真3~6)。この企画は当初2週間を予定していましたが、好評であったため1ヵ月間の展示となりました。本院は黒字の経常収支に

も関わらず国立病院の統廃合に巻き込まれるという非常事態にあり、翌年7月に国営から市営へ委譲される厳しくも寂しい時期でもありました。そのようななか、本企画は病院の存続を願う職員の気持ちを察した病理主任の粋な計らいでもあったのです。2000年7月、中津市立中津市民病院は誕生し検査科のスタッフは全員採用され、私は宮崎県の国立都城病院へ異動となりました。ちなみに、私の国立病院での勤務は大阪病院、舞鶴病院(京都府)、九州がんセンター(福岡市)、小倉病院(北九州市)、中津病院、都城病院(都城市)、九州がんセンターを経験しております。

#### ◆技法は独学

本格的な「美人画」の描写は最後の勤務先となった国立病院機構九州がんセンター(2004年~)で再び開花することになり、技法は彩色一本に絞り込み挑戦することになりました。しかし、師範に習うこともなく独学であることで描(えが)いているというよりは足掻(あが)いていると言った方がよいかも知れません。時間を重ねて行くうちに良質な顔彩絵具(吉祥。図1)や筆を求めるようになり画材ショップに通いモチベーションを高める努力だけは惜しんでいなかったようです。顔彩絵具には微量の膠(にかわ)が混入されていますが、さらに膠を少量の水で溶かして調整し、膠の量が多すぎると滲んできますので要注意です。膠は色調を保存するため



写真3 文化祭に展示した美人画(1999年 52歳頃)



写真4 文化祭に展示した美人画(1999年 52歳頃)



写真5 文化祭に展示した美人画(1999年 52歳頃)



写真6 文化祭に展示した「美人画」  
初めて色づけをした作品(1999年 52歳頃)

には必要な要素になります。色調のバランスはセンスを伴い着物の色調は特に難しく立体的に表現することは職人技になりますので独学の私にとってはとても難関です。ちなみに用紙は市販のスケッチブックを使用しています。筆の品質は命取りになりかねますので抜け毛の少ない

良質なものを求め、極細から丸筆、平筆、連筆などを揃えます(図2)。描写の方法は全体を鉛筆でスケッチし、髪形(結綿・桃割れ・銀杏返し)から顔へと描写しますが、このあたりは顔彩絵具の黒を使用し髪は極細筆で生え際を一本ずつ描き始め、段々と丸筆なども併用しながら



図1 使用する顔彩

仕上げ、櫛・鹿の子・簪(かんざし)などの色づけをします。簪には金色(図1右上)や銀色(図1右下)をつけ加えます。顔の描線は極細筆で一気に描き、眉毛と口元そして目元は最後の仕上げとなります。次に着物の着色ですが、華麗で鮮やかな色調を醸し出すために顔彩絵具を工夫して混ぜ合わせます。吉祥の顔彩は35色入りを使用していますが多種で初めてみる色調ばかりです。例えば、赤色系には臙脂(えんじ)、紅梅、紅、上朱(じょうしゅ)、珊瑚(さんご)の5種類があり、緑色系では古代緑青(こだいろうくしょう)、青瓷(せいじ)、青草、黄草、若葉、白緑(びやくろく)、緑青(ろくしょう)の7種類があり、各々微妙に色調が異なります。実際にはなるべく淡い色調を重視して描くようにしておりますが大変な作業になります。そして最後の締めは目元です。作品が生きるも死ぬもここで決まりますのでいつも息を止めて描いています。この年になりますと眼力の衰えは隠しきれず拡大鏡とはこれからも良き供です。

ところで肝腎の試写体ですが、もともと葛飾北斎や喜多川歌麿などが描いた浮世絵にはあまり興味がなかったため、“女性の優しさ”を現代風にアレンジしたものを求めていた頃、今野由恵画伯著の「美人画」(日貿出版社)に出会うことができました。今は私の貴重なお手本となっております。こうして2004年の年末から年明けにかけて一気に10作品ほどの「美人画」を描き



図2 使用する絵筆

上げました。

私の雅号は「麗旭(れいぎょく)」です。古くから知人でもあり恩人でもある久留米市の由緒ある印章業(創業102年)の4代目より“旭が昇る様”の情景を雅印にして下さったものです。

#### ◆個展への挑戦

折しも2005年4月頃(58歳)、知人よりタイミングよく「個展」の依頼がありました。私にとってそれは夢のような話であり臨床検査技師7名で挑戦することにしました(図3, 4)。展示の内容は絵画展3名と陶器展4名で全て素人の皆さん達でした。その知人は後輩にあたりますが人物、風景など多才の持ち主で人間性にも尊敬する方です。2005年10月27日(木)~31日(月)「形態と美のシンメトリー」と題し、絵画と陶芸展が福岡県甘木市秋月の民芸店「ろまんの道」の2階画廊で開催されました。テーマは我々が業務とする形態学と芸術の美を絡ませたもので知人が考案しました。この開催は西日本新聞(2005年10月26日付け朝刊)に「臨床検査技師が絵画と陶器展示」と題して掲載され、臨床検査技師をコマーシャルすることに繋がりました。開催期間中、評判はよく多くの方が訪れ絵画は非売品でしたが、陶器は何と11万円ほどの売り上げがあったようです。絵画は15点を展示しましたが私は8点を展示(うち5点写真7~11)し、素人ながら個展という貴重な体

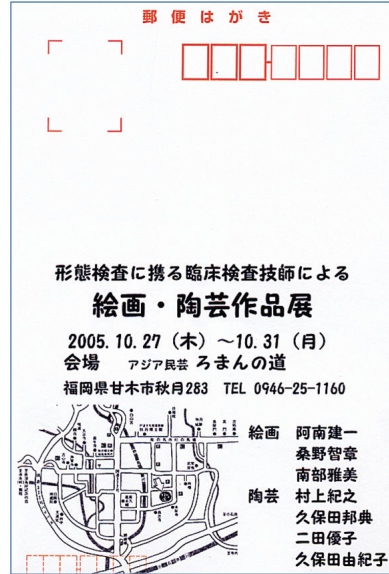


図3 個展開催のご案内

**南部**

春日市、大野城市、甘木市、朝倉郡  
太宰府市、筑紫野市、那珂川町

臨床検査技師が  
絵画と陶器展示  
計7人、あすから  
「形態と美  
のSymmetry」と題した絵画  
と陶器の展示会が27-31  
日、甘木市下秋月のアジ  
ア民芸店「ろまん道」  
の店内ギャラリーで開か  
れる。入場無料。  
県内で細胞や血液の検  
査に携わっている臨床検  
査技師7人が趣味で制作  
した作品約80点を展示す  
る。  
ろまん道 0946  
(25) 1160。  
「きみに読む物語」  
来月5日に上映会  
春日市大谷  
6丁目の市  
春日市映画「き  
みに読む物語」の上映会  
が開かれる。  
同センターの「土曜シ  
アター」企画の一環。上  
映時間は午前10時、午後  
2時、同7時の3回。施  
設利用料として300

図4 個展開催が掲載された西日本新聞  
(2005.10.26(木))



写真7 個展作品「こたつ」(2005年 58歳頃)

◆形態と美のシンメトリー

私は血液細胞を顕微鏡で観察する仕事に従事してきましたが、「美人画」を描写する繊細なタッチとよく似た共通点をもっているようにも思えます。それは事細かい観察力にあると思われる。血液細胞を同定する際は普通染色で細胞の核・細胞質を詳細に観察して同定し、細胞化学染色で色づけをして細胞の起源を推測し形態診断を行います。独学による「美人画」の描

験を味わうことができました。私の作品は原画を複製して知人の結婚式やお祝いなどに額縁に入れてお届けするようしております。その後私の気ままな性格によってまたしても休眠期を迎えております。



写真8 個展作品「花だより」(2005年 58歳頃)



写真9 個展作品「もみじ」(2005年 58歳頃)



写真10 個展作品「風」(2005年 58歳頃)



写真11 個展作品「もの思い」(2005年 58歳頃)

写の際はスケッチから始まり黒色を基本として描線を行い、次に装飾や着物に色づけをして全体を把握しながら仕上げとなる目元を描いて完成になります。私の周囲の形態検査に従事している臨床検査技師のなかに絵画を趣味とされている方が多いことから“観る”と“描く”は共通しているかも知れません。まさに「形態と美のシンメトリー」だと思います。

#### ◆おわりに

師範につくことなく始めた「美人画」はこれからも独学で描写することになると思いますが、60歳で感じる女性の“美の麗彩”をもう一度追究してみたいものです。

稿を終えるにあたり素人のため絵画に関する専門用語に間違いがあることをご容赦下さい。

読者の方にはさまざまな趣味をお持ちの方がおいでかと思ひます。  
編集室では本コラムへのご投稿を心よりお待ちしております。